

税金の大切さ

蒲郡市立中部中学校 3年 足立 萌

「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」

中学生になり、国語の教科書をテスト勉強の合間に読んでいた時のことです。ひと息つこうと教科書を閉じた時に、偶然目に飛び込んできたこの一節。私の税金への見方を一変させるほどの強い衝撃を与えたのでした。

買い物をするたびに支払う消費税。予想を上回る金額を目の前に「消費税なんてなくてもいいのに」と、私にとって消費税は取られるお金であり、「厄介な存在」でした。しかし、教科書に書かれたこのメッセージが、実感と共にその重要性を私に気づかせてくれました。

税金の使途として、私たち中学生にとって最も身近なものは、学校で使用される教育費だと思います。私は今年度で義務教育を修了しますが、その九年間の教育にかかる費用は一人当たり約八百八十五万円にもものぼるそうです。これが何万人、何十万人という数になればその総額は膨大です。

さらに、税金は医療、介護、年金、公共施設など、私たちの生活に不可欠な様々な分野にも充てられています。私の弟は、生後一ヵ月でRSウイルスに感染し、二週間入院をしました。また、私自身も中学一年生の時に右膝を患い、現在も通院を続けています。生まれてから現在に至るまで多くの治療を受けてきましたが、両親が負担した金額は限られており、それを支えてくれたのは、国民全体が負担する税金でした。私が住む市では、高校生まで医療費が無料で、これもまた税金によるものです。これらの制度を知った時、今までお金に困ることなく治療を受けてこられたことに感謝すると共に、こんなにもお世話になっていた税金を「厄介な存在」と思っていた自分を恥ずかしく思いました。

これまでの自分自身の生活や経験を振り返ると、税金は社会生活を成り立たせる上で、不可欠なものだと改めて感じます。今ここにある素晴らしい生活環境は、当たり前のことではなく、税金によって支えられ、共に助け合って成り立っているのです。私が今できる納税は消費税だけかもしれませんが、それを通じて社会全体の発展に貢献することができると思うと、誇らしい気持ちになります。

税金がなければ、楽しい学校生活も安心した医療サービスも享受することは難しいでしょう。私の税金の見方も「払わなければならないもの」から「みんなの幸せのために貢献するもの」へ変わりました。これからも、税金が私たちの生活を多岐にわたって支えてくれていることを意識し、消費税を支払うことを通じて、社会に貢献していきたいと思います。そして、この恵まれた環境に感謝し、「税金のおかげ」という自覚を持って、日々の学びに全力で取り組んでいきたいと思います。